
存在理由

粟生

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

存在理由

【Nコード】

N8955Y

【作者名】

栗生

【あらすじ】

少年、少女の悲しくて寂しくて切ない気持ち？の詩？です。

15歳未満はあわり見ないほうがいいと思います。

グロイ系が結構入ってます。

グロイ系が無理な方はご遠慮されたほうがいいです。

作者本人の気持ちもあるかもしれません。

結構更新するので、読んでくれると幸いです。

ブログ

存在しちゃいけない人間。

そんな人間はこの世にいつぱいいる。

自分自身は”必要”されない。

いつも一人。

何をやっても、無理だ。

無能なんだ。

最低なんだ。

最悪なんだ。

死んでしまえばいいんだ。

誰がそれを思った？

分らない。ただそんな事が頭から離れない。

友達も家族関係もうまくいかない。

こんな人生、もう捨てればいいと思ってしまった。

何もかもが壊れればいいと。

何もかもが…無くなればいいと。

小声でつぶやいてしまう。

そして、思う。

自分なんて、存在価値の無い、死んだ方がいいという存在に。

僕の存在理由は何？

友達と仲良くする事？

家族と仲良くワイワイする事？

絆、友情をする事？

恋愛する事？

意味が分からない。それが僕の存在理由なら。

君の存在理由は何？

僕はどうして、素直になれない？

どうして、僕は一人ぼっちなんだろう。

「こんな世界無くなればいい、壊れてしまえばいい。

僕自身、存在しなくなればいい。

来世など、来なくてもいい…。」

狂った僕

僕はいつも一人だ。

誰も居ない。

周りに居ない。

なぜだろう？

皆、僕を避ける。

話しかけてきたと思えば、皆冷たい目で僕を見る。

そんなに、僕がおかしいの？

そんなに、僕が変なの？…。

誰も必要としてくれないの？

家族も友達も皆。

僕を認めてくれないの？

それなら、僕なんて死んだ方がいいじゃん。

死んだ方が…。

そしたら、皆泣いてくれるでしょう？？

お父さん

お母さん

お兄ちゃん

お姉ちゃん

妹

弟

おばあちゃん

おじいちゃん

おば

おじ

いところ

だつて！！

皆、僕が死ねば、泣いてくれる？
思ってくれる？

僕が遺書をかいて”本音”を書いたら、
一生僕の事思ってくれる？

それなら、僕は死んでもいいよ？

僕が死んで、また、皆が僕の事を愛してくれるなら。

そんな事へっちゃらだよ？

だつて、僕は誰かが愛してくれるなら。

”死”なんて怖くない！

愛してくれる？思ってくれる？？

”好き”って”愛してる”って言うてくれる？？

それなら、僕は死んでも構わない。

そう、皆が望むなら。

「それが僕の存在理由なんだからね？」ニコッ

狂った私（前書き）

気分で結構書きます。

短いと思うので、よろしくです。

最後ら編、グロイです。

狂った私

はははははははは。

楽しい。嬉しいわ。

あなたが私の隣にいてくれることが！

あなたが、私の隣で笑ってくれる事が！

あなたが私の事を想ってくれる事が！

とても、嬉しい。

私は嬉しい。

嬉しくて泣いてしまうほど。

あなたと一緒に居ることで私は、嬉しい。

楽しい。寂しくないし、あなた以外の人間どうでもいいわ！

私は、あなただけを見ている。

あなたが、憎い人間がいるなら、私が殺してあげる。

あなたが、寂しいなら私がそばにいてあげる。

あなたが、望むなら、私は”死”なんて怖くない！！

”好きよ”私が言う。

だけど、君は優しく笑ってごまかす。

私が、それでも。あなたが笑ってくれるならそれでもいいと思った。

だけど!!

あの日、あいつが!..。

あいつさえいなければ!私とあなたの関係は崩れずにすんだのに!!

殺した!血まみれになって。

首をもぎちぎった!

のこぎりで!ははははは!!

誰もが驚愕することを私はした!!

楽しかった!

人生初だった!!

恐怖と気持ちよさが溢れてきた!!

そして、私は愛しのあなたの首も...もぎちぎった。

だけど、大丈夫。

あなたの顔は人間の首につけたから大丈夫。

あなたは一生私と一緒によ。

「好きよ。世界で一番あなたが大好き。」

血だらけの部屋で私はあなたと眠ったわ。

「私の存在理由…あなたと永遠に一緒にいることよ。」

闇に落ちた人間（前書き）

この内容は、題名になる台詞があるので。

闇に落ちた人間

”死ねばいい。”

そう思った。

他人を見ているといつもそう思う。

へらへらしてる人間。

平気で嘘をつく人間。

遊びと言ってイジメをしている人間。

ただ真面目に勉強している人間。

恋に熱中している人間。

友情という物をしている人間。

熱血な人間。

中途半端な人間。

傷だらけの人間。

病んでいる人間。

ネガティブな人間。

ポジティブな人間。

冷たい人間。

変な人間。

夢を見る人間。

夢が叶うと信じている人間。

人を信じきっている人間。

絶望、欲望している人間。

世界を恨んでいる人間。

イジメを受けている人間。

どの人間も面白くない。

ただ、何がしたい？

何を望んでいる？

僕にはまったく分からない。

見えない。

お前ら人間の求めている物が！

意味が分からない。

どうしてだ？なぜだ。

僕は何の人間なんだ？

分からない。

僕は必要ない人間か？…。

まあ、僕は自分から人を避けてるけど。

嫌いだから。

友情とか絆とかそういうもの。

嫌いなんだ。

うつざくて。

うつざくて…。

だけど、少し冷たくて氷のように寂しくて。

僕は時々、本当に自分が一人だと自覚させられる。

その恐怖がある。

だけど…僕はそのまま、閉じてしまった。

「君は誰？僕を知ってる？」

この世界を知ってる？

ここは、自分が望む物を探せばいい。

僕は、ここの管理をする人だよ。

僕の名前は…そうだね…。トキとでも呼んでくれればいいよ。

じゃあ、楽しんで言ってるね。君の存在理由を探してるね。」ニコッ

へらへらしている人間

「へらへらしてる人間って悩み事なさそうに見えるよね？
僕はそう、思うよ？君は？どうか？

僕と同じ意見なのかな？？まあ、見ていこうか。物語を。」

いつも笑ってる。

いつも、イジメを受けても、恥じをかかされても。

いつもへらへら笑ってる。

それで皆が幸せになる。

そう思ってる。

だが、違う。

皆笑うけど…本当に笑ってない。

嘘笑い。

いつも笑ってるのは、自分自身。

他人を見ていると、ぞっと寒気がする。

へらへらしてたら、皆あきれて自分から遠ざかる。

自分は考えるよ。

何で、こんな”性格”なんだろうって…。

何で、こんな”哀れ”なんだろうって…。

へらへらしてる事が、悪いんじゃない。

だけど、他人からは…。

『あいつって、悩みなさそうだよなあ』

「何かうつぜ。」

「あいつ見ると、苛々するうー。」

「マジ、ムカツク！」

そんな声が耳に入ってくる。

だけど自分は、笑う。

何が何でも。

自分が笑えば、他人も笑う。

ただそれだけだった。

だから、嬉しかった。

嘘笑いでもよかった。

自分と一緒に笑ってくれる人が入れるなら。

「自分の存在理由：それは、笑ってくれる人。」

それが自分の望で存在の理由だから。

平気で嘘をつく人間

「僕は結構、嘘つきますよ？」

だって、人をだますの好きだからね。

だけど、平気で嘘つける人は、駄目だなあ。

あえて、友達失っちゃうよ？」ニコッ

「なあ、知ってるか？2組のあいつさ、3組のあいつを付き合ってるんだってー！！」

「マジか！」

一人嘘をつくとき、周りが信じて。

噂になる。

自分の嘘にだまされた。

自分はとても快樂になって行く。

嘘をつくとなぜか楽しい。

楽しくて飽きない。

誰にもみ抜かれない、誰もが自分の事を信じる。

そして、みんな”噂”を流すんだ。

自分が嘘をつく。

そして、他人が他人に教え。

そして、他人同士、傷つけあい。

友達ではいられなくなる。

それはとってもいいことじゃないか!!

自分は好きだな。

そう言う関係が。

嘘をつけばつくほど、友達関係、家族関係も壊れていく。

そして、いつしか自分の周りにたくさん人が集まってくる。

友達と仲直りしたい、だから嘘を言ってくれ。

それは自業自得だ。

なら、噂を流さなければいい。

自分の事を信じなければいい。

自分はお前等を他人を利用してただけだ!!

だから、嘘をつく。

これが自分の存在理由!!

「自分の存在理由！それは…他人のおろかで悲しい顔を見ることがだ
！」

嘘をつけば、自分の心も駄目になってしまうのにね。

遊びと言ってイジメをする人間

「イジメですか。僕は嫌いですね。

そんな事をする奴等は地獄に落ちればいい。

たとえ、今仲良くしても、心の一部は闇と恨みと憎しみで埋まっている。

だから、僕はあまり他人と関わりたくありませんね」ニコッ

自分は他人をいじめるのが好きだ。

オロオロしてる奴、真面目そうにしてる奴、ウザイ奴、調子の子供、いる奴。

自分はこんな奴等が大嫌いだ。

はっきり言って、ウザイ、消えろ、死ね。

だからいじめる。

見てて、イラつく。

だからいじめる。

いじめるのが楽しい。

そいつの泣き顔。

そいつのにらみ顔。

そいつの怒った顔。

全部がむかつき、殺意にかわる！

殺したい。

死んでほしい。

壊れてほしい。

どっかに行つてほしい。

狂えばいい。

そんなどうでもいいことが頭の中でぐるぐる廻る。

そうだ。

イジメをしているうちに自分が狂ってしまった。

だんだん、いじめるのが楽しくて、気持ちよくて、嬉しくて。

そんな事でいじめる。

自分は狂ってしまった。

だが、別にどうでもよかった。

イジメをしてる方が自分自身から遠ざける事が出来る！

イジメを受けている奴が自分を復讐しに来る！！

それを思えば、ゾクゾクしてたまらない。

だから、自分はいじめる。

誰がなんと言おうと。

「俺の存在理由、復讐してほしい。それだけのことだ。」

あなたは愚か。誰もあなたに興味はありませんよ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8955y/>

存在理由

2011年11月27日13時00分発行